

発行日 平成11年 3月31日  
 発行者 江別市生涯学習推進協議会  
 編集人 広報小委員会 (太田佳美)  
 連絡先 江別市教育委員会生涯学習担当  
 <高砂町24・381 - 1062>

# 会費は 年額二千円です

## 新年度から徴収 本会運営のため

平成7年3月の創立以降、懸案となっていた本会の会費は、平成11年度から納入していただくことになりました。

このことについては、昨年5月開催の本会総会において、11年度から団体、個人会員を問わず2千円を徴収すること

で議決されておりますが、具体的納入方法などについては別に定めることになっておりました。

右の総会議決をうけ、本年1月、2月に開催の総務委員会で検討の結果、納入方法等は次のとおりとなりました。

① 会費は、納入依頼文に基づき、直接か、又は口座払

いずれにしろ、本年5月の総会以降、各会員あて納入依頼文が発送される予定です。



いきいきとした学習の場を提供(第3回生涯学習フェス「風のまちのエチュード」)

## なぜいま会費なの？

### 主体性の確立 事業の充実

本会の会費は、創立以来、いろいろと検討を重ねてきましたが、ここまでの4年間は徴収せず、事業は主に市の補助金を頼りに行ってきました。

しかし、本会は市の代行機関ではなく、あくまでも市民主体の生涯学習実施団体(本会規約第4条)でありますので、こうした自主財源のない状態は本来的なものではありません。

いかなる団体でも、団体独自の自主財源があつてこそ、主体性を確立することができ



多くの市民に現代的課題に対応した学習機会を提供 (第4回生涯学習講座「アジアと日本」)

一人一人が会の運営に興味と責任を持つことができ、それなくしては運営の充実を期することはできません。この4年間、総務委員会の議論の中で「会費を納めてなにかメリットがあるのか」との疑問がありました。この点

については、「メリットがあるなしでなく、生涯学習の推進のため積極的に参画する、そのための会費」ということで集約されました。江別市全体の生涯学習の推進のため、行政だけにまかせずに、我々市民団体も東にあって推進にあたる。そのための本会であり、各会員はその一翼を担うということでもあります。会員のみなさんご理解をいただければ幸いです。

定価 千五百円 (残部若干あります)

## 写真集 働く人びと

江別市生涯学習推進協議会発行



# 日々楽しむ私の生涯学習



桑原 朋子さん

今年も大音響の中を思い切り踊れる季節が近づいてきました。私がYOSAKOIソナーランを知ったのはまだ学生の頃で、このイベントも始まったばかりでした。初めて見た時、身体がゾクゾクとしてきて、何とも言えない感動を受けたのを覚えています。その時から「いつか私も参加してみたい」という気持ちでいました。

仕事後の練習は決して楽な日ばかりではありません。しかし、不思議と「今日は休みたいな」と思ったことがないのです。江別まつことええチームに入りムに今年で四年目。メンバーは、小学生や私の両親と同じくらいの年代の方など様々です。私がYOSAKOIを楽しみ、これからも続けていきたいと思う気持ちは、踊っているときの感動だけでなく、チームの人達のやさしさ、暖かさに出会えたことに、一番感動しているからかもしれません。(江別まつことええチーム会員)

## 踊り子の感動

た。大きなスピーカーから流れる音楽、たくさんの照明、大勢の観客の視線をあげて踊った初めての踊りの感想は、百人を超えるチームの人達がひとつになれたという感動でいっぱいでした。



いくつになっても学ぶ喜びはわかりません(市教委・蒼樹大学卒業式)

## 日赤と私

生涯学習推進協議会の理事を受けてから九二年、今回で私の所属する広報小委員会が最後になり、肩の荷がおりた様な気がします。その役割はこの情報紙「ら・ら・ら」の原稿をお願いすることです。それで、最後は私が責任をとって、さて何を書いたら良いかまよってしまいました。が、紙面をかりて日本赤十字奉仕団についてご紹介します。



渡辺 京子さん

に立つ事をしたいと思い、社協の事務局長さんに相談したところ、日赤江別分団を紹介され、現在に至っています。団員は五〇代から八〇代、平均年齢六十数歳、六〇代が若手といわれ皆さん張り切ってボランティアに励んでいます。

年間の活動日数は二百日以上、その他にひまわりホームとナーシングに一四名の団員が活動しています。創設四〇年を迎え喜ばしい事ですが、当市では大きな災害もなく今年間の活動日数は二百日以上、その他にひまわりホームとナーシングに一四名の団員が活動しています。創設四〇年を迎え喜ばしい事ですが、当市では大きな災害もなく今年

画させていただったので筆を取らせていただきます。生れてから約四〇年、江別と札幌の境、文京台に住んでいます。生れる前から酪農大、そして約三〇年前より道女子大、札幌学院大が来江され、10万都市を目指した頃、私が大学で上京している間にこのまちも住宅化が進み、驚くほどの変貌を遂げました。家業も、農家から学生寮経営と変化をし、

## 学生街に生きる

若者と密着し生計を立てている。世間や社会的変化は学生を通じて肌直に感じますが、ちょっと片寄りがちであると考えていたところ、七年前に江別青年会議所の仲間に入れていただきました。異業種の同年代の友人も増え、また多数の先輩諸氏との交際もでき、色々な会合への参加等々幅広い方々のふれあいにより、己れへの反省や成長を重ねられる環境が整いました。やはり、人生は日々学問ばかりではない勉強であるとヒシヒシと感じます。最近の学生達は、人と人のふれあいをとかくめんどろがりテレビゲーム等、内にこもりがちに写るのは私だけなのでしょう。自分の職域である現場でもっと多くの幅広い方々との交流を学生達に促し、入居者と共に自己修練・研鑽に努めたいと思います。(江別青年会議所直前理事長)



洞野 博文さん

私がこのコラムを書くことは、誠に僭越に存じますが、この生涯学習推進協議会に参



# 点字ろくの会

吉田 信子（会長）

「点字ろくの会」もこの頃は少しづつ市民の皆さんに知られご理解いただけるようになってきました。またご存じない方も多いようです。江別には豊幌に盲老人施設、大麻に札幌盲学校と視覚に係わる二大施設があります。

様々な要因で中途失明

者が多くなったり、又、高齢化が進み核家族、少子化と「家族」が小さくなっていく中、視覚障害の方々と接する機会もあまりなく生活しています。同じ市民としてその方々が不自由なく安心

して日常生活が送れるようサポートできたらと思います。ろくの会は、そんな方々の力になれたらと点訳活動をして一七年になります。会員はみんな点訳を一つの趣味として自分が楽しみながら取り組

公文書の点訳が増えてきた事は大変よるこばしい事です。視覚障害の方から点訳本のリクエストが次々寄せられてもいます。又、昭和六三年から点訳養成講座

## 同じ市民としてのサポート

の指導も市より受託、外からの要望で多忙になる程張り合ひも増すことになりました。

必要としていますが、その結果がたらこんなうれし事はありません。平成一〇年から毎月

その他施設の行事にボランティアで参加したり、江別視障協の皆さんと年一度懇親会で遠出を楽しんだりしています。

そんな中で考える事は、各公民館やアートセンターなどで催す展示物を触って鑑賞できる機会を設けてほしい事。又、ボランティアを体験学習で取り上げる学校もできていますが、中学・高校などで点訳体験学習ができれば良いと思っています。



点訳の普及活動にも意欲的です

## 事務局から

当会副会長の関根正一氏が昨年12月11日に逝去されました。会員の皆様にお知らせ申し上げますとともに、おくやみ申し上げます。同氏には、平成7年2月、江別市生涯学習推進協議会設立準備委員会委員長として当会の設立にお力添えいただきました。設立後も理事として組織運営検討部会長、総務委員長の重任を果され、平成9年5月から副会長として当会の運営面の強化・充実に熱心に取り組まれておりました。また、公職として平成2年8月から8年以上にわたり江別市社会教育委員をおつとめで、江別市の教育行政全般に亘り多くの功績を遺されました。慎んで追悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

## 公民館活動 新たな潮流

生涯学習指導者研修会おわる

学習しました。

生涯学習指導者研修会が、3月5日(金)午後1時30分から野幌公民館で開催され七三名の公民館教室講師、サークルの指導者、団体のリーダー、教育関係者が参加し、「公民館活動と生涯学習」について

講師は社会教育の第一人者であり、現在では日本生涯教育学会の理事でもある横澤厚彦氏においていただきました。社会の変動により、生涯学習社会の構築がさげられるなか公民館の役割は以前にも増して重要になっていきます。九〇分の講義でしたが、参加者は公民館活動が「自分づくり」「仲間づくり」「地域づくり」の拠点として、地域における市民の学習ニーズに応え、教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進につとめなければならぬことを学び、今後の学校週5日制への対応やボランティア活動の拠点としての役割など、地域の実情に即した公民館活動を深めておりました。



市民ミュージカル

江別市民ミュージカル『Feeling 涙に会いたい!』が来る8月7・8日の2日間、えぼあホールに於いて上演されます。

この舞台はオリジナル作品です。ある日、課外授業で森を訪れた子供たちが森の奥深く迷い込んでしまいます。そこで、新たな移住先を探して地球にやってきた宇宙人と出会います。一方、森の外では学校やPTAが大騒ぎに…。子供たちが宇宙人と出会い、忘れかけていた夢や感動を取り戻すまでを周囲の騒動を交えてファンタスティックに描きます。

約50名の出演者は小学校の低学年から大人まで年齢層はバラエティに富んでいます。オーディションを経て、現在は週2回、歌・踊り・演技の3部門の稽古に励んでいます。また、照明や音響・大道具・美術・制作・演出助手などの裏方は市民のボランティアスタッフで構成され、みんなで完成度の高い舞台づくりを目指して頑張っている毎日です。

また、実行委員会では出演者(大人4~5名)と照明・音響・衣装等のスタッフを随時募集しています。スポットライトを浴びてみたい方、裏方を体験してみたい方、この機会に仲間に入りませんか。

- ◆公演 8月7日、8日/江別市民文化ホール(えぼあホール)大麻中町26-7 ※時間・チケット発売日は未定
- ◆詳細 江別市民ミュージカル実行委員会(市教委社会教育課) 381-1060



指導者の資質向上も重要です

を深めておりました。



# 私の宝物

## 後世への最大遺物

眞屋幹雄



人はこの世に生まれてきた以上、後生に何かを遺したいと考えるものです。ところが、実際に何を遺すかととなると、ハッキリ答えられる人は希でしょう。人類が永遠に問い続けるような重大問題に、内村鑑三（一八六一〜一九三〇）は実に明確な答えを示しました。題名も正に「後世への



最大遺物」、この本にそれが書かれています。われわれが後生に遺すべき

しかし、これらの遺物は、誰にでも遺せるものではなく、特定の才能がある者に限られることにも内村鑑三は言及しています。その上で、誰もが後生に遺すことのできる最大遺物として「勇ましい高尚なる生涯」をあげています。

希望をもち、誠実に勇気をふるって、生きることを

そうした生涯こそ後生に遺せといっているのです。岩波文庫でわずか五八ページの小著ですが、読むたびに天上からの贈り物を見るような奇跡的な輝きを感じて目の覚める思いがします。（錦町在住）



市内学習ポイント①

江別市消防本部

市消防本部では傷病者の救命率向上を目指し、平成七年より市民の皆さんが応急手当に関する正しい知識と技術を習得していただくために「普通救命講習会」を開催し、これまで二千五百名以上の皆さんが受講されました。この講習会では、主に訓練人形を用いての心肺蘇生法と大出血時の止血法などを中心に習得していただきます。

応急手当は他人事と考えず、多くの皆さんに習得して

消防署救急救助課 382-5486

# 生きること学ぶこと

## ガイドNo.4・普及版発刊

当協議会では、市民各層の生涯学習を支援しようと学習に必要な様々な情報を調査、「ガイドブック」として編集し毎年発行してきました。今年度はNo.4となり、昨年引き続き市内の学習団体及び施設

の紹介、さらに各分野の指導者を紹介しています。

みなさんは「何か新しいことに挑戦したいが、仲間に入れてくれるサークルはないかな？」あるいは「仲間という

引き受けてくれる指導者はいるだろうか？」など、学習活動をすすめるうえで疑問、悩みをお持ちではないですか。そんな時、ひとつの道標としてお役に立てるものとおもいます。

### 520団体 650指導者の紹介

手軽な手引書・ガイド普及版

また、No.4にあわせて生涯学習をはじめうるうえでの手引書となるガイドブック普及版「生涯学習のすすめ」も発刊

しています。16頁の小冊子ですが、生涯学習の意義や実践活動の方法論などわかりやすく解説しました。

### 編集後記

雪解けもすすみ、新しい季節を迎えます。

協議会も来年度から会費徴収がはじまり、新しい局面を迎えることとなります。会員



新しいこと、はじめてみませんか

いづれも、希望者には公民館等市内公共施設で無料配布していただきますので、ぜひお手に取りいただき、ご活用ください。なお、No.4の主な情報は次のとおりです。

- ◆団体情報：文化・スポーツ・ボランティア・家庭生活・国際交流など広範な分野の団体及びサークル。約五二〇件。
- ◆指導者情報：団体と同様に広範な分野における指導者。約六五〇件。
- ◆施設情報：市内で文化・スポーツ・見学など学習活動に利用できる施設。約五〇件。
- ◆詳細：事務局/市教委生涯学習担当 381-1062

の英知と創意を結集し市全体の生涯学習を推進することが、ひいては私たちの暮らしにゆとりや豊かさをもたらしてくれることとなります。どうぞ、ご理解、ご協力をお願いいたします。